

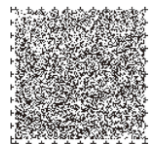


# 依存症

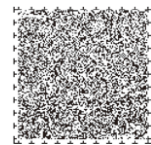
気分を変え、興奮や刺激などを得るために、物質使用や行動への依存を続けてしまい、やめられなくなっている状態です。アルコール・タバコ、薬物などの物質に依存する場合や、ギャンブル、ゲーム、インターネットなどの行動・プロセスに依存する場合、暴力や虐待などのように特定のひととの人間関係に依存し、相手を支配しようとする場合などがあります。

## 障がいの状態

- 精神作用物質に依存** ..... アルコール、タバコ、覚せい剤、シンナー、大麻、市販の鎮痛剤、咳止め薬、病院で処方される睡眠薬、精神安定剤など。
- 行動・プロセスに依存** ..... ある行動をするプロセスで得られる興奮や刺激を求めて、その行動自体に執着・依存する。
- 人間関係に依存** ..... ある特定のひととの人間関係に依存する。歪んだ人間関係に執着することで、ひととのつながりを求めようとする。女性依存・男性依存・ドメスティックバイオレンス(DV)・ストーカーなど。



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



## 配慮

こんなサポートがうれしい!

**依存症は、病気であることを理解してください。**

依存症は、病気であって、意志の弱さ、道徳心の低さや家庭環境が悪いことが原因ではないと理解することが重要です。専門とする医療機関での早めの治療が効果的な場合があり、家族や周りの人も、病気や治療に関して正しい知識を学んでください。

**自分の力だけで依存を断ち切るのは困難です。**

依存には、飲酒や薬物の使用、ギャンブルなどの行動を繰り返すことにより、脳の状態が変化して、自分で自分の肥大した欲求をコントロールできない「精神依存」や、実際にその物質を中断すると体に異常(離脱症状など)が生じる「身体依存」などが見られます。

**治療や自助グループに参加する時間への配慮をお願いします。**

依存症の治療は、その物質や行為などをやめ続ける以外にありません。医療機関では主に心理社会的な治療を行います。また、依存症は、回復することのできる病気ですが、本人だけの力ではなかなか困難です。自助グループなどへ参加することが重要で、そのための時間の配慮も必要です。

**家族や周りの人も依存症について学んでください。**

専門の医療機関や県の各相談機関では、「依存症」について学び、回復につながる対応方法を話し合う場所として、家族教室などを開催しているところもあります。本人だけでなく、家族や周りの人もこのような機関で学び、サポートをしてもらうことが回復の支えとなります。

## 事例

たとえば、こんなことがあります。

依存症は病気であり、身体的な不調ばかりではなく、家庭内での孤立や貧困、失業などの社会的な問題が生じます。したがって、治療や回復をサポートする仲間が必要とされますが、個人の問題だととらえられ、治療に対する周囲の理解が得られない場合があります。治療のための通院や、療養のための休暇、精神的・身体的な苦痛などに対する周りの人の配慮が必要で



※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。